

2021年度第6回中京競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 中京スポニチ賞

中京スポニチは、スポーツニッポン新聞社から発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 飛驒ステーキス

飛驒（ひだ）は、旧国名のひとつで、岐阜県北部の市。恵まれた自然環境を生かし、ブランド牛として有名な飛驒牛をはじめ、トマトや桃などの農業も盛ん。

○ 栄特別

栄（さかえ）は、名古屋市中区の地名。また、栄交差点を中心に広がる繁華街。東海地方を代表する商業地区であり、百貨店や高級ブランド店が立ち並ぶ。名古屋テレビ塔が観光地として有名。

<第2日>

○ こうやまき賞

こうやまきは、マツ目コウヤマキ科の常緑針葉樹。日本固有種であり、秋篠宮悠仁親王のお印である。なお、愛知県新城市にある甘泉寺のコウヤマキは国の天然記念物に指定されている。

○ 中京日経賞

日経は、日本経済新聞の略称。同紙は、東京と大阪に本社を置く日本経済新聞社が発行する日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ ジャパン・オータムインターナショナル チャンピオンズカップ（G I）

本競走は、平成12年に創設された『ジャパンカップダート』を前身とするダート重賞競走。当初は東京競馬場 2100mで実施されていたが、20年には阪神競馬場へ移設、距離も1800mに変更された。さらに、26年より中京競馬場へ移設し、装いを新たに、国内のダートチャンピオンが集う競走として、競走名も『チャンピオンズカップ』に改称された。なお、本競走は、秋季国際G I競走シリーズ『ジャパン・オータムインターナショナル』に指定されている。

○ 鳴海特別

鳴海（なるみ）は、名古屋市緑区の地名。江戸時代には東海道 40 番目の宿場町として栄えた。かつては海岸であり、鳴海潟と呼ばれていた。

<第 3 日>

○ 犬山特別

犬山（いぬやま）は、愛知県北西部の市。市の西部には濃尾平野、東部には丘陵地が広がる。市内を流れる木曾川に面して国宝の犬山城があり、江戸時代には城下町として栄えた。

○ 中日新聞杯（GⅢ）

本競走は、昭和 40 年に創設された重賞競走。初年度は『中日杯』として実施され、翌年に現在の名称に改められた。当時の中京競馬場は芝コースがなかったため、砂 1800m で実施されていた。45 年に芝コースが新設されたことに伴い、芝 1800m で実施されるようになり、平成 18 年からは距離が 2000m に延伸されている。また、19 年までは父内国産馬限定競走として実施されていた。

中日新聞社は、愛知・東京・石川・静岡に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 豊川特別

豊川（とよかわ）は、愛知県南東部の市。商売繁盛の神として知られる豊川稲荷や国の天然記念物でもある御油のマツ並木などが有名。市内東部には、愛知県北東部の鷹ノ巣山に源を発する豊川（とよがわ）が流れる。

<第 4 日>

○ つわぶき賞

つわぶきは、キク科の多年草。東北地方以南の暖地の海辺に自生する。葉がフキに似ており、表面に光沢があるため、艶蒨（つやぶき）からつわぶきの名が付いたとも言われている。10 月頃から初冬にかけて、キクのような鮮黄色の頭状花を咲かせる。花言葉は「謙譲」「愛よ甦れ」。

○ 知立ステークス

知立（ちりゅう）は、愛知県中部の市。旧東海道の池鯉鮒（ちりふ）の宿として発展した。市内にある知立神社は、江戸時代に東海道三大社のひとつに数えられた名社で、日本武尊が元を作ったと言われている。また、東部の八橋は、『伊勢物語』にも詠まれたカキツバタの名勝地である。

○ 名古屋日刊スポーツ杯

日刊スポーツ新聞社は、東京や名古屋など全国に5ヶ所の本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第5日>

○ スポーツ報知杯中京2歳ステークス

本競走は、中京競馬場での2歳馬競馬の総決算として、昭和35年に『3歳優勝競走』から改称され創設された競走。平成24年に12月から7月に移設され、令和2年より再び12月に実施されている。

スポーツ報知は、報知新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同紙の中部版を発行している読売新聞中部支社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 有松特別

有松（ありまつ）は、名古屋市緑区の地名。同地の名産品の有松絞は、東海道を往来する旅客の土産品として珍重され、昭和50年には県下第1号の伝統的工芸品に指定されている。

○ 大須特別

大須（おおす）は、名古屋市中区の地名。大須観音があることで知られる。付近一帯の大須商店街は多種多様な施設や商店が軒を連ね、活況を呈している。

<第6日>

○ 寒椿賞

寒椿（かんつばき）は、ツバキ科の常緑低木。花期が12～2月と真冬であることからこの名が付いたと言われる。花色は紅・白・桃色など多彩。花言葉は「謙譲」「愛嬌」。

○ 三河ステーキス

三河（みかわ）は、旧国名のひとつで、現在の愛知県東部にあたる。平安時代の律令施行細則である『延喜式』によれば、三河は上国であったと記される。明治 5 年（1872）には、尾張を併せて愛知県となった。

○ 尾張特別

尾張（おわり）は、旧国名のひとつで、現在の愛知県西部にあたる。平安時代の律令施行細則である『延喜式』によれば、尾張は上国で八郡あったと記されている。戦国時代には、織田信長、豊臣秀吉といった有名武将を輩出し、江戸時代は、御三家筆頭の尾張徳川家の所領となった。